

「安心・活力・発展プラン2005」 第3回安心部会 委員発言要旨

日時：平成26年12月22日（月）13:30～15:30

場所：トキハ会館5階「カトレア」

No.	項目	発言要旨
1	子育て支援	移動手段に困っている子育て世帯も多い。四国や横浜で行われている子育てタクシーのような取組について検討してほしい。
2		障がいを持っているお子さんの保護者のネットワークづくりも記載してほしい。
3		ひとり親家庭に対する放課後児童クラブの利用料助成等、ひとり親に対する支援をもっと充実させてほしい。
4	高齢者支援	市役所から70歳で敬老会の案内が来るが、もう少し年齢を引き上げても良いのではないか。
5		健康づくりの推進組織についてしっかり記述してもらいたい。
6	障がい者支援	障がい者に対し、サポーター養成講座のようなものがあれば、障がい者が地域で暮らしやすくなるのではないか。
7		障がい者雇用率日本一はもう少しで手の届くところまで来たので、今度は障がい者地域生活率日本一を掲げてみてはどうか。
8		障がい者支援の施策にも精神医療の充実を入れておいてほしい。
9	医療	県立の精神科病院がないことが大分県の弱み。10年計画なので、作るということについて、もう少し踏みこんで記載してほしい。
10		在宅医療については、在宅での看取り医療の充実についてもよく検討してほしい。
11	福祉一般	目標指標の設定については、できるだけ具体的に成果がわかる指標を設定してほしい。
12	環境	河川の流域連携だけではなく、森林保全や海の利用も含めた「水循環」という考え方を盛り込んでほしい。
13		ごみゼロ作戦を推進していくリーダーが必要。リーダー育成に力を入れてほしい。
14		雑排水の浄化をもっと進めてほしい。
15	食育	「食」というキーワードを、観光や農業遺産、子育て支援、女性の活躍等、できるだけ多くの分野の施策に盛り込んでほしい。県産品を食べて農林水産業を支えるという視点が必要。
16	男女共同	夫婦間での家事のシェアや、男性の子育て参加を推進していくことが子育て満足度日本一につながる。

No.	項目	発言要旨
17	地域づくり	集落が主体となってネットワークを構築していくことが理想だが、そのような力のない集落も多い。集落を補完・代替するようなコミュニティを形成していくことも考えて良いのではないか。
18		空き家対策については、生活環境の整備という観点からも推進してほしい。
19		地域づくりは、10人前後の小さな班、あるいは50～60世帯程度の集落といった小さな単位で本音を出し合いながら議論していくことが重要。
20		異質な者との出会いがイノベーションを生む。地域づくりには出会いの場とつなぐ役割の方の両方が必要。
21		住民同士の支え合いによる移動支援が今後重要となる。そのために県に関係機関との調整をお願いしたい。
22		買物弱者は小規模集落だけでなく、高齢化が進んだ都市部の団地でも問題となっている。両方への対策を講じてほしい。
23		大分県では福祉ボランティアと災害ボランティアの住み分けがはっきりしていない。ボランティアセンターの機能も含め、整理が必要。
24		市町村社協に期待しているが、時代の変化についてこれていない。変化を恐れない市町村社協を育ててほしい。
25	防災・減災	毎月1日が「県民減災社会づくりの日」ということだが、なかなか具体的な取組が見えてこない。防災・減災に対する啓発をもう少し強化してほしい。
26		防災担当部局の職員にはなるべく長期間職務に従事してもらい、専門性を高めてもらいたい。
27		自主防災組織活性化支援センターが設立されて2年目となる。人づくりには息の長い取組が重要であり、今後とも支援をお願いしたい。
28		コンビナート群の防災対策をしっかりとしてほしい。
29		防災教育として、昔の人にいかに関災を免れたかを学校で聞く機会を設けても良いのではないか。
30		津波に備え、防災タワーを整備してみてはどうか。
31		水の事故防止対策として、夏休み前にパンフレット1枚でも良いので配ってはどうか。
32	感染症対策	老人福祉施設等ではノロウイルスやインフルエンザの流行状況の情報が一刻も早くほしい。警戒段階での情報提供を検討してもらいたい。
33		インフルエンザ等の流行エリアを県保健所単位で発表しているが、もう少しエリアを狭めて公表できないか。